

ムカシ文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2022. 1. 28

No. 13



向かって左側の山がペンケトコム、右側がパンケトコム(南西側：平取大橋の上から撮影)

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 13—

ペンケトコム、パンケトコム(三井沙流山林南区域に所在)

平取町字小平の後背地に、きれいに並んだふたこぶの山があります。ペンケトコム(上流側・くるぶし)、パンケトコム(下流側・くるぶし)と呼ばれるアイヌ伝承地で、かつてはパウチコロペ(淫らな者)がいるので近づいてはいけないと語られてきました。現在、国道237号線を車で走ると、美しい対のこぶ山として眺めることができます。その一方で昔は美しいというよりも親しみのない伝承が語られ、時代とともに移り変わる価値観を垣間見ることができます。

このような山や岩の造形に込められたアイヌの物語は北海道の各地にあります。沙流川流域は都市部のような市街地開発が少なく、アイヌ伝承地が比較的良い状態で残されています。ウカエロシキ(通称クマの姿岩：二風谷)、オプシヌプリ(穴あき山：二風谷)、ムイノカ(箕の形象：荷負)、シュプンタプコプ(ウグイ[のいる沢がある]・丸い山：貫気別)、ロクンテウェトウ(弁財船のへ先：幌毛志)、フンペセトゥル(クジラの背中：岩知志)といった伝統的な世界観を学ぶための場所が平取町内に点在しています。

北海道で伝えられてきた宗教や文芸、自然との関わりを知ることができる語りの舞台は歴史特性としても評価されており、今後大事にしていくべき地域遺産といえます。(長田佳宏)



トコムは平取町小平地区の三井物産社有林内に所在する
ハヨピラ ☎ 442 647 130 (トコムの視点場近傍)

終了報告 平取町立二風谷アイヌ文化博物館第27回特別展

本展ではキリスト教の宣教師ジョン・バチラーが重点的に活動した北海道南西部において、地域住民と信頼関係を築き、伝道活動とアイヌ文化研究を展開していく様子をパネルと映像資料、展示物でご紹介しました。また、各関係機関や個人の方に資料の貸出・ご提供、特別展のPR、助言などでご協力頂くほか、特別展関連講座では2名の講師の方がご講演下さいました。



▲10/10 特別展関連講座① 講師：田辺陽子氏
(早稲田大学非常勤講師)



▲特別展会場にて 映像資料視聴の様子

本展の準備を進める中で、バチラーや地域の方々が教育施設の設立に尽力する様子がとても印象に残りました。次年度の展示は、明治時代の平取に学校が開設されていく経緯をご紹介したいと考えています。引き続き、皆様のご来館をお待ちしております。
(廣岡絵美)

終了報告 令和3年度沙流川歴史館特別展・講座

沙流川歴史館では、10月1日～11月28日まで特別展『びらとりの学校 うつりゆく学び舎』を開催し、たくさんの方々に見学に来ていただきました。ありがとうございました。

10月23日(土)に石狩市立紅南小学校エキスパートサポーターの坂本年光氏を講師に招いて「学校教育の移り変わりとお人を育てる平取の風土」と題して沙流川歴史館講座を開催しました。坂本氏は平取で過ごした少年時代～教員として携わった平取～学校教員の移り変わりなど当時の写真を使いお話しいただきました。
(坂本エミ)



▲特別展見学の様子



▲講座講師：坂本年光氏

博物館・歴史館事業紹介

◆新型コロナウイルス感染症対策交付金の活用

新型コロナウイルス感染症は少しずつ収まりつつありますが、まだまだ気は抜けない状況は続いています。

今年度、地方創成臨時交付金で音声ガイダンスシステムが導入されました。最大 40 名まで利用が可能です。職員の解説をヘッドホンを通して聞けるので密にならず、大きな声で話さなくても良いので、感染症対策として活用されています。同じく、感染症対策として購入されたパーティションも、講話や体験活動の場で利用されています。

これらのほか、令和 3 年度中に博物館展示音声解説（令和 2 年度導入）の再生機器として、タブレット 10 台を購入します。これによりスマートフォンをもっていない方でも音声解説サービスを利用できます。また、博物館内の Wi-Fi につなげれば当館 HP のアイヌ口承文芸を視聴したり、民具画像検索を行うこともできます。二風谷のアイヌ文化をより深く、正しく学ぶための便利アイテムです。

また、コロナ禍により売上げの減少したアイヌ工芸振興対策として、二風谷民芸組合からアイヌ工芸品を購入します。当館の運営は二風谷コタンをとりまく関係機関との連携が非常に重要です。来訪者の減少が続いている中であっても、アイヌ伝統文化の今日的継承のための取り組みを地域一体となって進めていきます。



音声ガイダンスシステムを利用したの解説



パーティションを利用したの講話

◆博物館・歴史館職場体験

10 月下旬、平取町立振内中学校の生徒 2 名が沙流川歴史館、博物館の両館で職場体験を行いました。

博物館では学芸員の仕事を体験し、民具の計測や記録といったことをお手伝いしていました。慣れない作業をしていたので 1 日があっという間だったようです。休憩中は仲良く話をしている姿が微笑ましかったです。（笠原早百合）



博物館での職場体験

沙流川流域の野鳥たち No.1

タカ目タカ科

観察難易度：★★☆☆

オオワシ

学名：*Haliaeetus pelagicus* 漢字名：大鷲

英語名：Steller's Sea Eagle

アイヌ語名：カパ(ツ)チリ【kapa(r)-cir】

大きさ オス 88 センチ メス 102 センチ

鳴き声 「グワッ、グワッ、グワッ」としわがれた太い声で鳴く

特徴 黄色の大きなくちばし、^{おぼね}尾羽と肩の部分が白く、白黒のコントラストで遠くでもよく目立つ

生息環境 海岸、大きな河川、湖沼付近

食性 魚類や鳥類、哺乳類およびそれらの死肉

日本で最も大きなワシといわれるオオワシは、羽根を広げると翼の長さは2～2.5メートルにもなります。^{かき}夏季にロシア東部（カムチャツカ半島^{からふと}、樺太など）で繁殖し、冬季になると越冬のため北海道に飛来する冬鳥です。越冬地は道東に集中し、その他の地域では単独か数羽の群れが見られる程度です。平取町でも冬の間、まれに姿をみることができます。

オオワシが天然記念物に指定されたのは意外と古く、1970年です。1993年には、国内希少野生動植物種にも指定されています。国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストで絶滅危惧種にも分類されています。現在推定されている個体数は5000～7000羽です。

鉛中毒で苦しむオオワシ

オオワシの生息を脅かすものとしては1990年代半ばから発生が顕著になった鉛中毒があります。銃で捕殺されたエゾシカの死体や解体の際に残った銃弾の破片を肉とともに飲み込むことによって発生します。発生のパークとなった1998年には26羽のオオワシ、オジロワシの中毒死が確認されました。北海道では2001年までに鉛銃弾をエゾシカ猟に使用することは禁止され、中毒死個体は減少しましたが現在も鉛中毒死個体の発見が続いており、多い年には5～8羽ものオオワシ、オジロワシが中毒死しています。（佐々木知代）



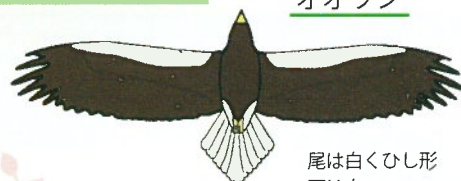
2019年1月1日 旧平取大橋から撮影



日本野鳥の会「野鳥トランプ」より掲載
※野鳥トランプはウトナイ湖サンクチュアリ
ネイチャーセンターにてご購入可能

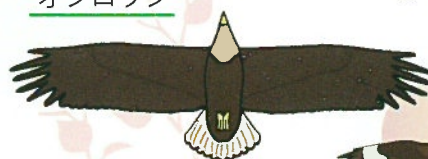
ワシタカの仲間の見分け方

オオワシ



尾は白くひし形
肩は白

オジロワシ



尾は白くおうぎ形

トビ



尾の中央がへこむ
翼の先のほうは白

アイヌ語を覚えてみよう ⑬

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、2001 年 4 月発行『平取アイヌ文化保存会』リーフレットに萱野茂さんが寄稿しているアイヌ語文章とその和訳を、そのままご紹介しましょう。

アイヌウタラ エネヤイヌヒ カントオロワ ヤクサクノ アランケプ シネプカイサムペネ
アイヌ民族の考えでは、天から役目無しに降臨した物は一つもない

キキリネヤッカ チカプネヤッカ ネプシッヌプネアヤッカ
虫でも、鳥でも、どんな生き物であっても

アエプアナッネ ウコイキサッノ ウコウサライエワ エパプネアコロカ
食べ物を奪い合う事をせずに分け合って食べていたものでした。

タネオカウタラ ネワアンヤイヌ オイラパヒ ケサッチャンペネ
しかし、今生きている人達は、その心を忘れてしまい私は大いに憂えています。

カシウン オコッコアペ イヨッタクシトマ
その挙げ句に原子力、という悪魔の火、それが最も恐ろしく

ウタラオピッタ カントオルン トプセコラチ
人類全部が天に向かって唾を吐き続けている様なもの

ネトプセホシピクニ ケシンパイ
その唾が私共の顔に戻るであろうことを案じています。

まるで東日本大震災の原発事故を予言していたかのような内容ですが、アイヌの考えを皆が持つことの重要さが、分かりやすく表現されていると思います。原子力を「オコッコアペ（化け物の火）」と表現しているのも興味深いですね。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！
（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）



アイヌ政策推進交付金事業②・③

アイヌ政策推進交付金とは、アイヌ文化の振興や福祉施策に加え、地域振興、産業振興、観光振興等を含めた市町村のアイヌ施策を支援する交付金制度です。

まちづくり課ではアイヌ政策推進交付金事業の一環として、②「生活交通ネットワーク計画策定事業・デマンドバス運行事業」を立ち上げ、デマンドバスを導入しました。

この事業では、アイヌ文様のラッピングを施したバスを生活館等を拠点に運行し、アイヌの



方のコミュニティ活動や生活を支える地域交通として機能させ、町民の利便性が向上することを目的としています。

また、各地区の生活館において、自治会を中心に住民同士が集まる様々な活動が行われていることから、高齢者を対象に自宅から生活館までバスの運行を実施し、社会参加の促進や地域コミュニティ活動の支援なども行います。

観光商工課では、③「アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業」を展開しました。アイヌ文化の理解と交流を促進するため、札幌／新千歳空港と二風谷地区・白老町（ウポポイ）を結ぶ有料バスとして、期間限定で運行しています。

バスの名称となる「セタプクサ」はアイヌ語で「すずらん」を意味し、平取町に北海道原種日本一の群生地があることにちなんでいます。

ラッピングされている文様は前年に引き続き二風谷在住の工芸家が手がけており、令和3年度では正面・運転席側面に高野啓子氏の女仕事「刺繍」、背面・搭乗口側面に貝澤守氏の男仕事「彫り物」がデザインされています。

この事業では道内外の旅行者を募集し、二風谷地区の「びらとり温泉ゆから」や「二風谷アイヌ文化博物館」、「萱野茂二風谷アイヌ資料館」、「沙流川歴史館」といった施設や店舗を巡り、それぞれの参加者にアンケートを書いています。

旅行者の生の声が聞ける大変有意義な事業となっています。

(阿部孝之)



ラッピングバス「セタプクサ号」
テープカット（千歳空港）



街歩きガイド

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

ぼうもうき
番外編：紡毛機

前々回より学校に関する記事をお届けしていましたが、町民の方より紡毛機の使い方を教えてもらう機会があったので、今号はその時に聞き取った内容をご紹介します。

紡毛機は羊から刈り取った毛を糸にするための道具です。11月29日に開拓財産展示施設で80代の女性2名の説明の下、施設の民具である紡毛機が動かされました。再現してみたのは、①ボビンに巻いてある導き糸に羊毛を巻き付ける ②羊毛を^よ撚りながらペダルを踏み、リールを回転させる ③羊毛が糸状になりボビンに巻き取られて行く、という作業です。

その後は、ボビンに巻かれた毛糸を糸巻機に巻き直したものを3セット用意し、3本の毛糸に撚りをかけながら紡毛機で1本にしたそうです。そして、毛糸を蒸し器^{そめこ}に入れて3本の糸同士をくっつきやすくしました。染粉で煮て着色しますが、色



▲紡毛機

を抜けにくくするために酢を入れました。毛糸が完成するとセーターなどを編んだそうです。昭和30年代後半になると化学繊維が普及し、紡毛機を使用する機会は急速に減少していきましました*。現在では個人の趣味やワークショップなどで紡毛機を使用する機会があるようです。

(廣岡絵美)

*北海道開拓記念館 監修 1993『北海道の民具』参照



▲糸巻機

毛糸を紡いだ70年前頃は、自分で羊毛を洗っていました。現在の市販の羊毛はとてもきれいに洗われていますが、自分で洗った羊毛には適度な脂気が残っていました。そのため紡ぎやすく丈夫な糸を作ることができたと思います。



【町内在住 80代の女性】



▲紡毛機を動かしているところ



▲糸巻機も使ってみました



▲地域の方々の交流の場となりました



開拓財産展示施設 見学のご案内

【開館日時】*変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 9:00～12:00
上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892
または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085



平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■休館日のお知らせ

4月15日までの毎週月曜日は定期休館日になります。

萱野茂 二風谷アイヌ資料館

■冬期休館（4月15日まで）

問合先：TEL 01457-2-3215

・お知らせ・ダムカードについて

沙流川歴史館は、改修工事のため休館中です（3月末までの予定）。休館期間中は、歴史館での「ダムカード」の配布を休止しています。

二風谷ダムおよび平取ダムカードは二風谷ダム管理所で配布しております

【お問い合わせ】

二風谷ダム管理所 TEL (01457) 2 - 4262



沙流川歴史館

■企画展

『北海道のダムカード展（仮題）』

期間：4月下旬～5月末頃（予定）

場所：沙流川歴史館エントランスホール

休館日：毎週月曜日

館内改修工事にともない、臨時休館していますが、4月からの開館を予定しています。新たな情報は歴史館Instagram・町HP等でお知らせします。

■特別展のパネルを貸し出しします■

沙流川歴史館では11月28日まで開催しておりました特別展「びらとりの学校 うつりゆく学び舎」で展示していた各学校ごとの校歌、校章、年表などのパネルを貸し出します。小学校、中学校、高校が対象です。自分たちの学校の歴史を学んでみませんか？

興味のある学校は、当館までぜひお問い合わせください。お待ちしております。

2022年1月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2022年2月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	1	2	3	4	5

2022年3月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

2022年4月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

● 博物館 休館日 ※2022/3/31(予定)まで歴史館は臨時休館しています ● 博物館・歴史館 休館日 ● 歴史館 休館日

シシムカ文化財だより No. 13

2022年1月28日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

